【勤務参考】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　１５．９．１０

技術開発官（船舶）

知的好奇心を旺盛に
（牧本海将講話抜粋）

本稿は、現自衛艦隊司令官牧本海将が幹部学校長時代に学生に対し講話されたもののひとつであり、物創り屋を標榜する我々技術者に対しても大いに参考となるので紹介し、若干の考察を加えてみる。

（以下引用）

ギリシャ語には、英語のＬｏｖｅに相当する単語が三つある。
それは、フィロス（知的好奇心）、エロス（相手に価値があるから好きになる男女の愛）及びアガペー（相手に価値がなくても好きになる無償の愛）である。
イエスが説く主題がアガペーであり、本職が説く主題がフィロスである。
このフィロス（知的好奇心）とは、「世〈過去・現在・未来〉界〈東西南北上下〉はどうなっているのだろうか？」という未知の事柄に対する興味・疑問から始まる。
人間にとって、時間と空間の制約のなかで、系統的、効率的かつ広範囲に「世界を知る」手段として書物にしくはなし！と思っている。読書によって、書中で疑似体験をしながら思索を凝らすと『知識を相関して知恵に融合する炯眼（けいがん）の持ち主になる』ことが出来ると信じている。

【付言；先に配信した「知識を知恵に変える方法」は、まさにこのことが哲学であり、目標であって、それを実践科学的な手法として示したものである。（開発官）】

（引続き引用）

読書などによる「世界を知る」過程において重要なことは、「自分自身ではなく、自分以外の他人･万物･環境に対する想像力を豊かにすること」である。このことは「他人への思いやり」、「物事の本質を見抜く洞察力」または「情報主要素からの健全な軍事判決」へと通ずる。
知的好奇心はまた、外界の価値･心理･危機を感じ取る感受性を育て高めてくれる。
感受性が低いと、「見れども観えず、聞けども聴けず」の状態に陥って、自己の認識する世界を狭くし、有識者の講話の全部を感得できなくなり、まことにもって勿体ないことである。
例えば路傍に咲くスミレの花が在るとする。二十代は眼で見ても気付かない。三十代は眼で見たら「美しいなー」と感じる。四十代は心で観て、「美しく咲いてくれてありがとう」と感謝する。五十代は心で観て、「スミレも吾も宇宙に育まれた一片の命である」と謙虚に“宇宙の一欠片（ひとかけら）”を体感する。
このように知的好奇心を旺盛にしておくことは、想像力を豊かにすること及び感受性を

高めることへの端緒となることを覚えておいて欲しい。
豊潤な想像力と繊細な感受性を有してこそ、２１世紀の海上自衛隊に奉職してお役に立てる指揮官・幕僚に大成できるのである。

【付言；ここでは太字、着色宇部分について技術者らしく解釈・考察することが自己を高める演練と考える。
例えば、万物・環境に対する想像力について考察すると、「すべからく科学技術的造形物の理想は自然界に存在するものであり、そこから新たな装備品開発のアイデアを誘発されることは多々あるのでは・・・・」など。
また、外界の価値・真理・危機を感じ取る感受性については、「おおかたの現象には科学的根拠が存在する。したがって、この課題の実現、問題の解決のためには・・・・」など。
本稿から何かを感じ取って自分の知識として概成させ、知恵として活用する努力をすること自体が、知的好奇心旺盛と評されることであり、そこから生まれてくる成果が想像力や感受性が育った証左と言えることに気がつくことを期待したい。（開発官）】

以上